

リベラルアーツ b (経済と医療)

【単位数:1単位, 授業13コマ】

1 科目責任者

川崎 優 講師(哲学)

科目担当者

石田昌夫(非常勤講師)

2 教育目標

(1) ねらい(I-2-c)

- ① コンピテンスである「プロフェッショナルリズム」の「他者の多様な価値観を尊重できる」ようになるため、経済学の視点を通して学ぶ。
- ② 現代の世界が直面する様々な問題を、他者の多様な価値観を含めて経済の側面から考察する。経済学の歴史を概観し、経済学のものごころの考え方を理解する。
- ③ 日本及び世界の経済に起きている経済問題の概要を把握するとともに、問題解明のための方法論を学習する。
- ④ 学習した内容に基づき、問題解決の方途を探求する。

(2) 学修目標

- ① 日常の経済問題の正しい意味を深い水準で説明できる。
- ② 今日の経済が抱えている主要な課題の解決策を考察し、説明できる。
- ③ ミクロ経済学とマクロ経済学の考え方を説明することができる。
- ④ 市場での自由な経済活動の成果と限界とを述べることができる。
- ⑤ 自由経済の中に強制力を伴う政府が存在する意味が説明できる。
- ⑥ 経済的厚生を高めるための、政府の果たすべき役割とその手段を説明できる。
- ⑦ 医療の経済的側面について、主な論点を述べるができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
小テスト	○	100%	講義内容の理解確認のため、簡単な小テストを行う(3回)。【再評価】やむを得ない理由で欠席した場合は、事情に応じて対応する。科目担当者へ問合せすること。
態度	○	—	受講態度が不良な場合は、10%を限度に減点する。

出席: 単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験はレポートを課す(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

講義内で詳しく説明する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
ゼミナール日本経済入門	三橋規宏 他	日本経済 新聞出版社	日本経済の主要課題が詳説されている。
スタンダードマイクロ経済学	竹内信仁 他	中央経済社	講義の内容をより深く理解できる。

6 準備学習（予習・復習）

- ① 講義に臨むに当たり、日頃から新聞・雑誌・ネットなどの経済に関する記事をよく読んでおくこと。
- ② 講義内容を十分理解し、再確認したうえで、次回の講義に出席する（1コマあたり約1時間）。

7 授業計画

（1） 講義の方法

講義形式を基本とし、随時講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

（2） 講義の内容

1コマ目に総論として経済の仕組みを説明する。2コマ目以降、家計・企業・政府という経済主体の働きを解説する。市場機構の有効性と限界、政府の役割について、事例を挙げながら詳述する。最後に、医療の経済的側面について考察する。